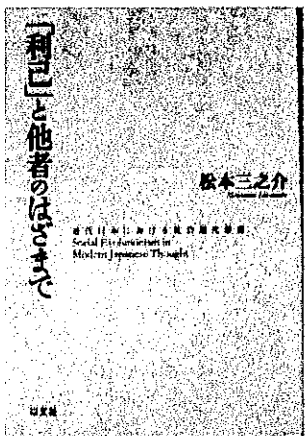


「利己」と他者のはざままで

近代日本における社会進化思想

松本三之介著

〈近代日本の思想状況のなかで社会進化論が果たした役割は保守的な役割から変革的なそれに至るまで拡散し、その担い手もまたさまざまな分野に及んだ〉明治時代に輸入され、盛んに議論された「社会進化論」の経緯を辿りながら、進化論の基礎をなす生存の欲求という観念を手掛かりに、自然権思想を形成する可能性を読み解く。ここでは、社会進化論がダーウィンの生物進化論を受け入れるにあたって、人間と生物一般との違いを明確に区別した上で、加藤弘之、内村鑑三、中江兆民、徳富蘇峰、丘浅次郎ら個々人の思想家に即して、社会進化論の議論を解説する。近代日本思想史研究の新たな境地に。



B6判 / 432頁 / 3700円
以文社